

美しい山・川・海 人が躍動する 交流と共生のまち

広報
ふるさと

香美

11
月号

平成 25 年 (2013)

No. 104



【写真】

－ 秋空の下、たすきをつなぐ －

第 26 回但馬村岡ミニミニ駅伝大会

98 チーム 392 人が参加した但馬村岡ミニミニ駅伝大会。1 チーム 4 人でたすきをつなぎ、ゴールを目指しました。

(本号 10 ページに関連記事を掲載)

今月の主な内容 (Contents)

- 2 まちのうごき
食育と香美町いずみ会
- 4 まちからのおしらせ
学力向上ステップアップ授業の取り組み
国民健康保険の被保険者証が新しくなります
役場各課などからのお知らせ ほか
- 10 まちのできごと
- 12 ふるさとの誇りを訪ねて
(別冊 けいじばん、いきいきカレンダー)

■時代とともに変わる「食」

「食」を取り巻く環境は、時代とともにめまぐるしく変化しています。戦後の食糧難と栄養不良。高度経済成長時代は台所用品の電化、とりわけ冷蔵庫の普及により食料保存が容易になったとともに、インスタントラーメンに代表される加工食品の登場や食の欧米化が進みました。そして、電子レンジで手軽に調理できる冷凍食品や簡単に手に入る調理済み食品の普及、外食産業の発展―。

朝食を食べない人や偏食する人、そして、肥満や生活習慣病の割合が増加しているのも、こうした変化によって、社会全体の「食の大切さに対する意識」が希薄になりつつあることに起因しているといわれています。また、核家族化が進み、「ふるさとの味」といわれる郷土料理の継承も難しくなっています。

時代とともに変わる「食」。戦後、栄養改善を行う目的で全国各地に食生

合言葉は

「私たちの健康は私たちの手で」

食育と香美町いずみ会

●問い合わせ先 役場健康課

活改善推進員が置かれました。そして、この推進員で構成された団体は、兵庫県では「栄養は生命の泉・美の泉」、すなわち栄養（食）は健康の基礎、幸せの基礎であるとの考えから「いずみ会」と名付けられました。

いずみ会は現在、生活習慣病が社会問題となっている状況を踏まえて、「私たちの健康は私たちの手で」を合言葉に、バランスのとれた食生活の普及を行っています。その取り組みの一部を見ながら、身近な食の課題を探ってみませんか。

■「食」を通した健康づくり

いずみ会の概要

いずみ会は「食生活を見直して健康づくりを進めよう」をテーマに、昭和40年代に盛んになった食生活改善運動に端を発します。現在に至るまでに全国各地で結成されていて、香美町いずみ会では229人（今年9月30日現在）が会員です。

身近な食生活の課題を取り上げ、そ



の改善を図るために地域に根ざした活動を行ういずみ会。主なものとして①

食育の推進②地産地消の普及③伝統食の普及④健康づ

くりの啓発―などがあり、これ以外にも災害時の非常食に関する研修など、食を通してさまざまな活動を行っています。

今年3月に策定した「健康かみ21健康いきいきプラン（第2次香美町健康増進計画・第2次香美町食育推進計画）」では「健康を支える食の大切さを町民一人ひとりが認識して、健全な食生活の実践と豊かな人間性

メッセージ「食育への思い」



香美町いずみ会
大石禎子会長

いずみ会では、「食育」という言葉が使われる以前から、地域において食生活に関心を持ってもらうためのさまざまな取り組みを行ってきました。子どもたちに料理の楽しさを体験してもらおうと、夏休みを利用した「親子クッキング教室」は開始から15年以上になります。

しかし、食生活の変化とともに、偏食をする子どもが多く見られるようになってきました。また、現在は加工食品があふれ、食材の元の形さえ知らない子どもも多く残念なことです。

育てる取り組みを推進する」と定めています。また、食育に関する今後の方向性として①子どもや子どもを産み育てる若い世代への食育の推進②伝統食の継承③家族そろって食卓を囲みコミュニケーションを図る④地元産の食材と教育の連携――を挙げ、さまざまな事業を展開しています。

今後地域に密着し、暮らしの中の「生きた知恵」を与えてくれるいずみ会。こうした活動と町の取り組みが一体となって、皆さんの健康づくりをお手伝いします。

■いずみ会に学ぶ「食」と「健康」

「食」という字は「人」に「良い」と書きます。つまり、食は健康の原点であり、健康寿命（健康で、日常生活が制限されることのない期間）の延伸、QOL（Quality Of Life＝生活の質）の向上、介護予防、明るい老後などには「食」が大きく関わっています。

ここで、いずみ会の活動の一端を写真でご紹介します。それらを通して、皆さんはどのようなことを感じられるでしょうか。

地域にしっかりと根付いているいずみ会の活動を通して「自分と家族の『食』を見つめ直し、健康づくりを人任せにしない。自分と家族の健康は、私が守る」と考える人が増えていくこ

とを願っています。また、いずみ会の活動は誰でも参加できるボランティア。関心のある人は、お近くのいずみ会員に声をお掛けください。

下段に、香美町いずみ会の大石禎子会長（小代区大谷）の「食育への思い」をつづったメッセージを掲載します。

これ以外にも、各種イベントへの参加、介護予防教室への協力、1人暮らし高齢者への給食サービスなど、活動は多岐にわたります。

香美町いずみ会の取り組み（一部）



①



②



③



④

【写真】

- ①親子クッキング教室では、子どもが母親と一緒に料理に挑戦。食育の基本は「家庭での食を通した触れ合い」です。
- ②子どもたちと一緒にジャンボ太巻き作り。「やったー、できたー」と子どもと一緒に大歓声。食育だけでなく、地域のつながりも育みます。
- ③お魚料理教室では、若い母親だけでなく男性にも魚のさばき方を指導。魚食普及だけでなく、伝統食の継承や地産地消も大切にします。
- ④町ぐるみ総合健診では適正塩分のみそ汁を提供。健康づくりのお手伝いをします。

親子クッキング教室では、母親だけではなく子どもも包丁を握ります。野菜を色んな形に切ったり、魚を煮たり焼いたりすることでさまざまな料理が作られていくという体験は、食への興味を持つてもらうための素晴らしい機会です。そして、生命の大切さや不思議さを知り、それを食することが「生命をいただくことへの感謝」につながることを子どもに教えることができます。「自分で作ったものはおいしい」と言い、苦手だった野菜を食べることができるようになった子どももいます。

各家庭では「包丁は危ない」といって、料理をさせない母親も多いと聞きます。安全な扱い方を教え、ぜひ親子で料理を作ってください。私たちいずみ会も、料理教室などを通してお手伝いをさせていただきます。

子どもたちが豊かな人間性を育み、生きる力を身に付けていくためにも、一緒に頑張りましょう。

学校間連携による

多人数で多様な授業展開！

夏休み中、各グループの教師は一堂に集まり、1学期の成果や課題を検証。よりよい授業ができるよう2学期の計画を立てました。

迎えた2学期。「学力向上ステップアップ授業」も本格的にスタートしました。ここで、2学期に行われた授業の一部をご紹介します。

●問い合わせ先 町教育委員会教育総務課

学力向上 ステップアップ授業

香美町学校間スーパー連携チャレンジプラン
＜小規模小学校間連携＞

多人数による 多様な授業の展開

小規模小学校が連携し、合同で授業を行う「学力向上ステップアップ授業」。年間10回、計30時間程度の取り組みですが、多人数で多様な授業を展開しています。そこには少人数では味わえない雰囲気、そして他校の児童の異なる意見や感想に刺激を受け、意欲的に授業に臨む児童の姿があります。

香住区の5小学校（奥佐津・佐津・柴山・長井・余部）の6年生46人が9月26日、校外学習の一環として、香住区森の大乗寺のふすま絵や同区下浜の足跡化石を見学しました。

それぞれの場所で講師から説明を受けながら、知識と理解を深める5校の児童たち。いつもと違う顔ぶれであることが、より一層、集中力を高めている様子で、どの児童も真剣なまなざしで説明に聞き入っていました。



▲足跡化石について説明を受ける児童たち
(9月26日、公立香住高校艇庫)

来春、村岡中学校に進学し、学び舎を同じにすることになる村岡区の3小学校（村岡・兎塚・射添）の6年生。9月24日、児童49人がこの取り組みでは初となる合同授業（体育・音楽）を兎塚小学校で受けました。

3小学校のうち、1学期は小代小学校と合同授業を行っていた射添小学校6年生。2学期からは来春を見据え、定期的に村岡区3小学校の合同授業に参加します。



▲体育の授業の前にあいさつ。来春には同じ学校で机を並べます（9月24日、兎塚小学校）

複数の教師による きめ細かい指導

小規模校連携による合同授業のメリットの一つに「1クラスに複数の教師が関わる」ことが挙げられます。そして、複数教師の役割分担は多様な授業形態を可能にします。

9月30日に村岡・兎塚の両小学校3年生34人が兎塚小学校で受けた算数の授業をご紹介します。

まず、教師1人がすべての児童に対して本日の学習分を指導。ほかの教師は、そのサポートや児童の様子に目を配ります。



▲授業の前半は、1人の教師による一斉指導。（9月30日、兎塚小学校）

後半は複数のグループに分かれて、各教師が学習を進めます。複数の教師がいることで、より多くの児童に対して均等に目が行き届きます。そして児童からの質問にもきめ細かに対応して、個別指導やアドバイスを行うことができます。



▲後半は複数のグループに分かれて学習を深化。複数の教師がいることで、きめ細かい指導が可能に（同）

10月4日、余部小学校で行われた香住区5小学校の1・2年生53人による合同授業では、15人の教師が集まって児童を指導。この取り組みによる合同授業では、時として1小規模校の全教師数より多い場合もあります。



▲授業の前に、15人の教師が自己紹介（同日、余部小学校）

多人数の前でも しっかりと意見を言える

前述の合同授業では余部小学校御崎分校も見学。その後、児童たちは自分の通う小学校と比較したときの相違点などを発表しました。

普段は10人に満たない人数で授業を受けている児童たち。しかし、多人数になっても臆することなく「分校には、〇〇があるけど、〇〇はない」などしっかりと自分の考えを発表することができました。

人の意見を聞いて 課題を解決する

9月30日、兎塚小学校での算数の合同授業。村岡・兎塚の両小学校5年生33人は「三角形の内角の和が180度であることを説明しなさい」という問題に、各学校の垣根を超えて協力。それぞれ意見を出し合いながら、問題に取り組みました。



▲意見を出し合い、主体性や協調性を養うこともこの取り組みの狙い（9月30日、兎塚小学校）



▲多くの児童の前で、堂々と自分の発表を行う児童（10月4日、余部小学校御崎分校）

地域の教育力を 学習に生かす

射添・小代の両小学校3・4年生48人が9月19日に受けた音楽の授業。射添体育館で、ふるさとものしり博士の野村六合司さん（村岡区川会）に長楽太鼓を教えていただきました。



▲伝統文化と触れ合うことで、児童たちはふるさとの大切さも学びます（9月19日、射添体育館）

独特なリズムに戸惑う児童もいましたが、楽しみながら意欲的に授業を受けました。

こうした、地域に根づく伝統文化を生かす取り組みは「ふるさと教育」にもつながります。



▲休憩時には両校の児童が一緒になって仲良く遊ぶ場面も（同）

多くの皆さんに

理解を深めていただくために…

オープンスクールを実施中！

夏休み中、保護者の皆さんを対象に行ったアンケートで、「授業を参観してみたい」「どうしているのか詳しく教えて欲しい」といったご意見をいただきました。

そこで、より多くの皆さんに「学力向上ステップアップ授業」を参観していただけるよう、現在その一部をオープンスクールとして公開しています。

香住区5校では、2学期中の学力向上ステップアップ授業の全授業を公開しています（村岡・兎塚・射添・小代の4小学校はオープンスクールの全日程を終了）。

参観を希望する人は、お住まいの校区の各小学校へお問い合わせください。また、取り組みの概要や授業の様子は、町ホームページでご紹介しています。

ぜひご覧ください。





アメダスって何だろう？

気象ニュースを見ていると、アメダスという言葉をよく耳にします。このアメダスとは何のことでしょうか。

アメダス (AMeDAS) とは「地域気象観測システム」のことで、[Automated Meteorological Data Acquisition System] の略です。雨、風、雪などの気象状況を時間的、地域的に細かく監視するために、降水量、風向・風速、気温、日照時間、積雪量の観測を自動的に行い、気象災害の防止・軽減に重要な役割を果たしています。

●問い合わせ先

役場総務課防災安全室

■町内のアメダス観測所

| アメダス観測所名 | 所在地 |
|----------|---------|
| 香住 | 香美町香住区森 |
| 兎和野高原 | 香美町村岡区宿 |



これは、昭和49（1974）年11月1日に運用を開始し、現在、降水量を観測する観測所は全国に約1300カ所あります。このうち、約840カ所では降水量に加えて、風向・風速、気温、日照時間を観測しているほか、雪の多い地方の約310カ所では積雪量も観測しています。

町 内のアメダス観測所は次の2カ所です。いずれの観測所でも積雪量を観測しています。観測したデータは、過去のものも含めて気象庁ホームページ (<http://www.jma.go.jp/jma/>) から確認することができます。

いきいき通信



●問い合わせ先
いきいき相談センター（役場福祉課内）
TEL 0796・36・4004（直通）

「命に関わらない」「相談するのが恥ずかしい」「歳のせいかも」とついつい我慢しがちな尿失禁。でも、これが原因で外出が面倒になり、閉じこもりやストレスなどにつながる恐れがあります。

今回は、排尿のしくみや尿失禁の予防策と一緒に学びましょう。

■尿をためて出す膀胱

尿がたまる膀胱の壁が少しずつ押し広げられます。個人差はありますが、缶ジュース1本分（約200〜300ml）程度の尿がたまる、神経を通じて脳に信号が送られ、それを受けて「出してもいいよ」と脳から指示が出ます。逆に「まだ我慢」の指示があると、膀胱は再び尿をためようとしてします。

■膀胱を支えるハンモック「骨盤底筋群」
尿道、膀胱、腸などを支えるのが骨盤底筋群といわれる筋肉。これが衰えると尿漏れが起こりやすくなります。女性の場合、骨盤底筋群が子宮も支えています。妊娠した際の胎児などの重みが掛かることで、男性より弱くなりやすいといわれています。また、便秘や肥満も負担を掛ける要因となります。

■運動する習慣を身に付けよう

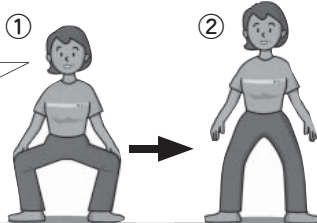
弱った骨盤底筋群を鍛え、筋力をつけることで尿漏れを防ぐことができます。適度な運動習慣を身に付けるほか、尿失禁予防体操を行って症状の改善を図りましょう。

また「尿漏れが嫌だから」と水分を控えると、かえって症状を悪化させることも。1日約1・5ℓを目安に、こまめに水分補給を行うとともにバランスの良い食事を心掛けて、便秘や肥満の解消を図りましょう。

■尿失禁予防体操

＜下腹部筋と骨盤底筋群、股関節筋の体操＞

- ①足を肩幅ぐらいに広げ、ひざとつま先を斜め外に向けて立ちます。息を吸いながら、ひざを曲げます。
- ②息を吐きながら、体を上へ持ち上げます。同時におしっこを止めるように力を入れます。



ポイントは「上体を起こすように行うこと」



消費生活相談

賢い消費者になりましょう！

～ 送り付けを断ったら損害賠償請求!? ～

【事例】

「以前申し込みのあった健康食品を送る」と自宅に電話が。「注文していない」と断ると、後日封書が届き「一方的にキャンセルされ、損害が発生した。期間内に3,000円支払わなければ法的手段に訴える」と書いてあった。どうすればいいのか。

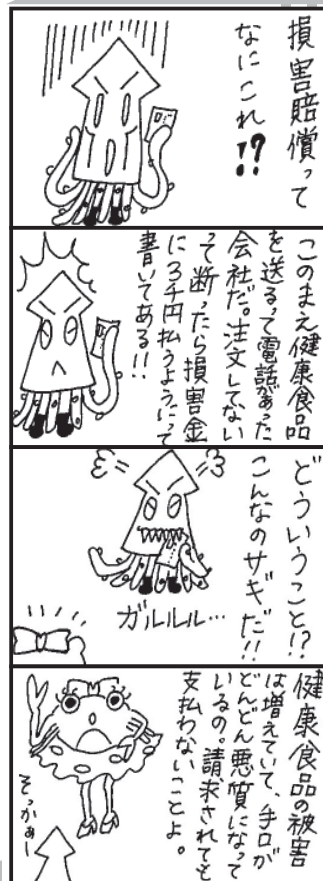
相談は
こちらへ...

役場消費生活相談窓口(町民課内)
TEL 0796・36・1941 (直通)
たじま消費者ホットライン
TEL 0796・23・1999
※相談無料で秘密は厳守!!

【ひとことアドバイス】

- ◇書類に「法的手段を取る」といった不安をあおるような脅し文句が書かれていても、注文した覚えのないものは支払わずに無視しましょう。お金を支払わないことが肝心です。
- ◇新しい手口として、健康食品に現金書留封筒や振込用紙を同封して、代金を請求するものもあります。
- ◇電話があってもきっぱり断り、注文していない商品が届いた時は受け取りを拒否しましょう。
- ◇業者の中には、暴言を吐いたり、脅迫的な態度を取ったりする者もいます。そういう場合は警察に相談しましょう。

こんなとき、どうする?



あなたの声、が 子どもの笑顔を守ります!

「児童虐待かな?」と思ったら、すぐに豊岡こども家庭センターに連絡してください。

連絡した人が特定されないように秘密は厳守されるほか、調査の結果、たとえ虐待の事実がなかったとしても、責任を問われることはありません。

また、児童虐待の通告は守秘義務違反にはなりません。

●児童虐待とは?

身体的虐待、性的虐待、ネグレクト(育児放棄)、心理的虐待(言葉による脅し、無視、差別的扱いなど)

●虐待が疑われる場合の連絡先

・豊岡こども家庭センター

TEL 0796・22・4314 (平日)

TEL 0796・22・9119 (夜間・休日専用)

・役場福祉課、各地域局

11月は
児童虐待防止推進月間
です



社会教育のより一層の充実を求めて

近畿地区社会教育研究大会を開催

近畿2府4県の社会教育委員や社会教育関係者などが一堂に集まる「近畿地区社会教育研究大会」が9月5日、和歌山県和歌山市で行われ、町内からは西内一博社会教育委員長のほか2人が出席。社会教育の現状や課題、また実践活動について意見交換を行いました。

同大会は、近畿地区での持ち回りで毎年開催。今回は「つながりを築く社会教育のあり方」がテーマ。ライフスタイルの多様化や少子高齢化などで地域のつながりや人間関係が希薄になっている現在、地域が抱えるさまざまな問題に対して、テーマに沿って5つの分科会を設置し、解決方法を探りました。

このうち人権教育に関する分科会では、町人権啓発推進条例や同和教育について西内委員長などが発表。

これに対して会場からは「地域の人材活用法に見習うところがある」「今後は長期の計画策定が必要では」といったアドバイスが行われるなど、活発な意見交換が行われました。



▲人権教育に関する分科会の様子

おめでとうございます

町内から表彰受賞者がありました

(順不同・敬称略)

人権擁護委員法務大臣表彰
田尻伊都子 (小代区貫田)

第 39 回兵庫県いずみ会大会
兵庫県知事表彰(優良いずみ会リーダー)
井上久乃 (村岡区八井谷)

日本赤十字社
兵庫県支部長感謝状 (金枠感謝状)
【奉仕功労】田村英子 (小代区貫田)



国民健康保険の被保険者証が
2 年に 1 回の更新時期

12月1日から新しくなります！

●問い合わせ先 役場健康課・各地域局

新しい保険証は、11 月下旬に簡易書留で郵送します。お手元に届きましたら、保険証の記載内容を確認していただくとともに、国民健康保険（国保）に加入しているご家族の保険証があるかご確認ください。



■保険証の有効期限について

平成 27 年 11 月 30 日になります。ただし、期限までに 75 歳に到達し、後期高齢医療者制度に移行する人などは有効期限が短くなっている場合があります。

なお、有効期限の切れた旧保険証は、役場健康課または各地域局に持参いただくか、はさみなどで裁断して破棄してください。

■ほかの健康保険に加入しているのに届いたときは

国保からほかの健康保険に加入（扶養を含む）した場合は、すみやかに国保の保険証を返却し、資格喪失の手続きを行ってください。

また、就職や転職などを行った場合、新しい勤務先が国保の資格喪失手続きを行うことはありませんので、ご本人やご家族が手続きを行う必要があります。

■国保税を滞納していると…

特別の事情がなく国保税を滞納している場合は、通常の有効期間より短い短期被保険者証や資格証明書を交付することになります。

文芸かみ

真砂俳句会 十月句会から

(掲載は氏名の五十音順)

※このコーナーでは、香美町文化協会所属の各団体の俳句・短歌を毎月掲載します。

屋根の彼方に萩日和の沖光り

有田美代子

「月光」を聴く厨かな月今宵

今西政枝

沈黙へ押し寄せてくる虫時雨

小川サヨ子

神話から始まる秋の星見会

川端静子

まっ青な空を映せし芋の露

小柴光代

木の香りただよう園舎鰯雲

駒居君香

海光に太れる梨の選果場

高橋二三子

息災のほかは望まず敬老日

谷脇政江

屋上の広き母校や鰯雲

長扶微子

神は穂をほとけへ飯を今年米

長谷川喜美

白髪の乾く早さよ秋の風

福田恵津子

亡き嫁の鏡台に挿す秋桜

村瀬美智子

一面の露草空を写しおり

森田淳子

◆定例会 (香住文化会館)

4/10月 毎月第一土曜日 午後1時～4時
11/3月 毎月第一火曜日 午後1時～4時



この記事につきましては、関係者の皆さんにホームページ上での公開承諾を得ておりませんので、個人情報保護によりホームページ上での掲載を控えさせていただきます。

※このコーナーは、先月（9/21～10/20）の届出分の内、承諾を得た方のみ掲載しています。（届出順・敬称略）



この記事につきましては、関係者の皆さんにホームページ上での公開承諾を得ておりませんので、個人情報保護によりホームページ上での掲載を控えさせていただきます。

※このコーナーは、先月（9/21～10/20）の届出分の内、承諾を得た方のみ掲載しています。（届出順・敬称略）

求人情報

詳細はハローワークにおたずねください

（平成 25 年 10 月 21 日現在、順不同）

●問い合わせ先 ハローワーク香住

TEL 0796・36・0137

| ＜フルタイム＞ | | | | |
|------------|-------------------|--------|------|----|
| 職種 | 事業所名 | 勤務地など | 年齢 | 人数 |
| ミシン安全管理 | アトリ-ツグ-ジ-パ-ン(株) | 村岡区高井 | 不問 | 1 |
| 運転手 | 有K-SIN TRANSPORT | 香住区若松 | 不問 | 1 |
| 水産加工 | (株)カネト水産 | 香住区沖浦 | 不問 | 3 |
| 歯科助手・歯科衛生士 | 西村歯科医院 | 香住区七日市 | 不問 | 1 |
| 畜産業務 | (株)上田畜産 | 村岡区宿 | 40以下 | 1 |
| 営業 | (株)出石モータース | 小代区 | 不問 | 3 |
| 営業・配送 | 寺田ガス(株) | 香住区森 | 40以下 | 1 |
| 製造 | (株)テクノサービス鳥取営業所 | 香住区内 | 不問 | 1 |
| 製造包装 | (株)蔵平水産 | 香住区七日市 | 60以下 | 3 |
| 土木作業 | 有セイシン創建 | 香住区森 | 40以下 | 1 |
| 講師・運営スタッフ | (株)立志（京都進学セミナー） | 香住区 | 35以下 | 1 |
| 看護 | 社会福祉法人 香美町社会福祉協議会 | 香住区無南垣 | 不問 | 1 |
| 看護 | | | 40以下 | 1 |
| 介護 | | 香住区森 | 不問 | 1 |
| 看護 | | | 不問 | 1 |
| 機械設備保全 | デサントアパレル(株)村岡工場 | 村岡区高井 | 40以下 | 1 |
| 生産管理業務 | | | 不問 | 1 |
| 工場内作業 | (株)カネサ | 香住区境 | 不問 | 1 |
| 現場作業 | (株)西山工務店 | 香住区森 | 40以下 | 2 |
| 施工管理 | | | 40以下 | 1 |
| 看護 | 村瀬医院 | 村岡区村岡 | 不問 | 1 |
| 大工職人見習い | 有北村工務店 | 香住区若松 | 不問 | 1 |

| ＜パートタイム＞ | | | | |
|----------|-----------------------|---------|------|----|
| 職種 | 事業所名 | 勤務地など | 年齢 | 人数 |
| 販売 | ローソン養父万久里店 | ローソン村岡店 | 不問 | 3 |
| 郵便物区分け | 日本郵便株式会社郵便事業総本部 八鹿郵便局 | 村岡郵便局 | 不問 | 50 |
| 仕分け作業 | ヤマト運輸(株) | 香住区大野 | 不問 | 1 |
| 接客 | 有三吉（かに楽座 甲羅戯） | 香住区浦上 | 不問 | 4 |
| 雑用 | | | 不問 | 1 |
| 早朝品出し | (株)トヨタ（フレッシュバザール香住店） | 香住区香住 | 不問 | 1 |
| レジ・品出し | (株)トヨタ（トヨタ香住店） | 香住区香住 | 18以上 | 1 |
| スキー場係員 | (株)マクア-リゾート おじろスキー場 | 小代区大谷 | 不問 | 5 |
| 訪問介護 | たじま農業協同組合 | 町内 | 不問 | 2 |
| 水産加工 | (株)宿院商店 | 香住区下浜 | 不問 | 4 |
| 医療事務 | (株)メディカルケア | 香住区香住 | 不問 | 1 |
| 接客・清掃 | 矢田川開発(株) | 香住区三谷 | 不問 | 2 |
| 訪問ヘルパー | 社会福祉法人 香美町社会福祉協議会 | 香住区森 | 不問 | 1 |
| | | 村岡区村岡 | 不問 | 1 |
| 販売 | (株)コメリ中四国地区本部 | 村岡区大糠 | 不問 | 1 |
| 接客 | 有さだ助 | 香住区下浜 | 不問 | 1 |

編集後記

残酷マラソン、姫ボタルトレイル、ダブルフル、ミニミニ、駅伝、町駅伝大会、氷ノ山、系トレイル。さまざまに選んで、姿を見えてきました。ゴーの「やりきった」感あふれる笑顔はどれも同じで、カッコいいの一言▼それにしてもトレイルラン。たった一人でも泥まみれ、傷まみれ。何十kmも続く道なき道。完走後のあきらめ、選手間でお互いのことを立たせる声を掛けることも、戦友を超えて生涯の友になることもありますよ。何より、レースを楽しまない」と。人も生、の縮図ですね。（みうら）

写真でつづる
まちのできごと

Photo News



日ごろの鍛錬の成果を披露！

第13回美方郡消防操法大会
(9月22日、おじろスキー場 Gondola リフト東駐車場)

香美、新温泉の美方郡内2町の各支団から選ばれた15分団が操法技術などを競う「第13回美方郡消防操法大会」が9月22日、おじろスキー場 Gondola リフト東駐車場で行われ、日ごろの鍛錬の成果を披露しました。

消防操法とは、ポンプの吸管を水槽に入れて約60m先の目標(火点)に向けて放水する、消火活動を想定した基本操作の訓練様式。消防団員の消防技術の向上と士気高揚を図り、消防活動を充実させるのがねらいです。

大会は隔年で実施され、操作技術の習熟度や迅速かつ的確な行動、選手の連携や士気および火点の的が倒れるまでのタイムで競います。1分団4人で編成する小型ポンプ操法の部には10分団が、1分団5人のポンプ車操法の部には5分団が出場。多くの消防団員や関係者が見守る中、どの分団も指揮者の号令に従って機敏な動作でホースや吸管を延長し、またたく間に火点を倒していました。大会結果は次のとおりです(敬称略)。



▲小型ポンプ操法の部 優勝 香住第2分団

【小型ポンプ操法の部】

優勝 香美町消防団香住支団香住第2分団、2位 香美町消防団香住支団香住第1分団、3位 香美町消防団村岡支団村岡第10分団
【ポンプ車操法の部】
優勝 新温泉町消防団浜坂支団浜坂第7分団、2位 香美町消防団香住支団香住特設分団

町内各地でたすきをつなぐ！

第26回但馬村岡ミニミニ駅伝大会(10月6日、村岡区「兎塚学びの里周辺コース」)
第43回香美町駅伝競走大会(10月20日、香住区大槻香住B&G海洋センター)



▲号砲とともに一斉にスタート
(但馬村岡ミニミニ駅伝大会、小学生女子の部)

秋が深まりを見せるなか、町内各地で行われた駅伝大会。沿道の声援を受けながら、選手は必死にたすきをつなぎました。

10月6日に行われた第26回但馬村岡ミニミニ駅伝大会には、小学生、中学生、一般のそれぞれ男女別6部門に町内外から98チーム392人が参加。4区間でたすきをつなぎ、健脚を競いました。また、今大会は町内各小学校が取り組む「体力づくり運動」の成果を発揮する「第2回香美町小学生駅伝記録会」も兼ねました。

力走後には、村岡区いずみ会の皆さんによるいずみ会鍋と道の駅ハチ北の皆さんによるおにぎり振舞われしました。3位以内の成績は次のとおりです(敬称略)。

小学生男子の部▼1位 香住小学校、2位 照来小学校、3位 香住小学校、4位 香住小学校、5位 香住小学校
小学生女子の部▼1位 香住小学校、2位 香住小学校、3位 香住小学校、4位 香住小学校、5位 香住小学校
小学生男子の部▼1位 香住小学校、2位 香住小学校、3位 香住小学校、4位 香住小学校、5位 香住小学校
小学生女子の部▼1位 香住小学校、2位 香住小学校、3位 香住小学校、4位 香住小学校、5位 香住小学校

10月20日に行われた「第43回香美町駅伝競走大会」には12チームが参加。優勝した「佐津谷ジュニア」の中瀬仁志さん(香住高校3年、香住区下岡)は「坂道は大変だったけど、メンバーの応援のおかげで区間賞が取れた。チームも優勝できてとてもうれしい」と声を弾ませていました。上位成績は次のとおりです(敬称略)。

1位 佐津谷ジュニア、2位 香美町役場、3位 佐津谷ムーミンズ、4位 下浜ウッドベッカー、5位 矢田川走友会A、6位 下浜法庭会



▲スタート後に坂道を駆け下りる選手たち
(町駅伝競走大会)



▲交通安全落語を披露する三遊亭遊馬さん

地域の安全・安心は皆さんの手で！

美万郡住民大会（10月12日、香住区中央公民館）

安全で安心できる地域を目指して住民の結束を強めようと10月12日、香住区中央公民館で「美万郡住民大会」が行われ、郡内の住民をはじめ関係者など約300人が参加しました。この大会は香美、新温泉の両町防犯協会と香住、村岡、浜坂の3交通安全協会が共催するもので、暴力の追放や地域の防犯、交通安全を啓発することが狙いです。

冒頭、香美町防犯協会の青山喜一会長が「最近子どもや高齢者を狙った犯罪が後を絶たない。こうした犯罪に遭わないよう、地域ぐるみで活動することが大切。今大会をその契機にしてみよう」とあいさつ。その後、郡内で防犯や交通安全に功績のあった1団体17個人に表彰が行われました。

美万警察署長によると、郡内に暴力団事務所はないものの、近年は資金源の獲得方法が巧妙になっているとのこと。また、刑法犯は昨年に比べ減少しているものの、事務所荒らしが増加傾向に。「行楽シーズンを迎え、自宅などを留守にすることも多くなるので、鍵をかけることを忘れないでほしい」と会場に呼び掛けました。交通事故に目を移せば、今年9月末現在の郡内の人身事故は64件。昨年に比べ11件少なく推移しているものの、死亡事故は3件発生し、4

人の尊い命が犠牲に。「これからは日没が早くなり、夕暮れから夜間にかけての事故が増加することが懸念されます。歩行者もドライバーも交通安全に意識を高めることが大切」と訴えました。

記念講演では、落語家の三遊亭遊馬さんが「高齢者の交通安全教室」と題して、身近な交通安全の注意事項を盛り込んだ落語を披露。会場は巧みな話術に誘われて大きな笑いに包まれながらも、交通事故の危険性と交通ルールを守ることの大切さを再確認していました。



▲制限時間まで残りわずかでゴールする女性選手2人

氷ノ山一帯を疾走し、大自然との会話を！

OSJ氷ノ山系トレイルレース（10月20日）

林道や登山道、時には道なき道を走破するトレイルランニング。そのシリーズ最終戦（第10戦）となる「OSJ氷ノ山系トレイルレース」（同実行委員会主催）が10月20日、兵庫県最高峰の氷ノ山（1510m）一帯で行われました。今回のレースは平成22年に初開催。翌年はコース上で土砂崩れが発生して休止を余儀なくされたため、今回が3回目となります。

マラソンなどのロードレースとはまったく異なるトレイルランニングですが、健康志向の高まりやマラソンブームを背景に、近年、人気を集めています。同様のレースは全国で年間約200ともいわれ、今年7月には同エリアで「姫ボタル・瀬川平トレイル30キロ」が行われました。今回のレースもそうしたブームを受けて、過去最高となる494人が過酷なコースに挑み、完走者数は377人、完走率は76・3%でした。

スタートは村岡区大笹のハチ北観光協会事務所の駐車場。民宿街を抜け、ハチ北スキー場の斜面を駆け上がり、鉢伏山山頂へ。その後、尾根沿いの山道を抜け、氷ノ山を目指します。そこから東因幡林道、扇ノ山、上山高原、論山を越えて小代区佐坊へ。とちのき村、そして、ハチ北高原スキー場を経由して下山。ゴールはスタートと同じ場所、全長約80km、高低差約990m。

選手は、熊鈴、ライト、1ℓ以上の水分といった装備品のチェックを受け、小雨が降る午前6時にスタート。15時間の制限時間内での完走を目指しました。鉢伏山山頂では霧のために前方10m程度しか見えないことも。選手は、樹木が生い茂り、石やくぼみが点在するコースを、ジャンプしたり一歩一歩確実に歩を進めたり。時には立ち止まり、秋の訪れを感じさせる山々の景色を眺めることも。降雨や落葉の影響で転び、負傷する選手もいましたが、マラソンとは違うトレイルランニングの魅力を感じているようでした。

優勝した佐々木裕之さん（奈良県）のタイムは8時間25分45秒。疲れを感じさせることなくゴールテープを切りました。今回は、日本のランニング界にトレイルランニングを広く普及させた、トレイルランニング界の第一人者、石川弘樹さんも招待選手として参加。ゴール後に「氷ノ山系のこのレースは、景観、コースとも素晴らしい。一人でも多くの人に挑戦してもらい、自然と会話するトレイルランニングの魅力を感じてもらえれば」と期待を込めていました。



▲朝もやの中、登山道を進む選手たち

役場各課など 主な施設の連絡先

| | |
|--------|-------------|
| 役場本庁舎 | 36・1111(代表) |
| 総務課 | 36・1111 |
| 財政課 | 36・1942 |
| 企画課 | 36・1962 |
| 税務課 | 36・1113 |
| 会計課 | 36・4321 |
| 町民課 | 36・1110 |
| 消費生活相談 | 36・1941 |
| 健康課 | 36・1114 |
| 福祉課 | 36・1964 |
| 農林水産課 | 36・0846 |
| 観光商工課 | 36・3355 |
| 建設課 | 36・1961 |
| 上下水道課 | 36・0420 |
| 議会事務局 | 36・1963 |

| | |
|-------|-------------|
| 村岡地域局 | 94・0321(代表) |
| 小代地域局 | 97・3111(代表) |

| | |
|----------|---------------|
| 町教育委員会 | 94・0101 |
| 香住区中央公民館 | (香住区生涯学習センター) |
| | 36・3764 |

| | |
|----------|---------------|
| 村岡区中央公民館 | 98・1366 |
| 小代地区公民館 | (小代区地域連携センター) |
| | 97・3966 |

| | |
|--------|---------|
| 公立香住病院 | 36・1166 |
| 公立村岡病院 | 94・0111 |

| | |
|---------------|---------|
| 香住文化会館 | 36・1026 |
| 香住老人福祉センター | 36・5008 |
| 村岡老人福祉センター | 98・1000 |
| 小代高齢者生活支援センター | 97・2202 |

(すべての施設の市外局番：0796)

まちのうごき (平成 25 年 10 月 1 日現在)

| | |
|----------|-----------------|
| 合計 | 19,915 人 (－ 27) |
| 男 | 9,541 人 (－ 14) |
| 女 | 10,374 人 (－ 13) |
| 世帯数 | 6,804 世帯 (－ 16) |
| カッコ内は前月比 | |



◇問い合わせ先 町教育委員会生涯学習課

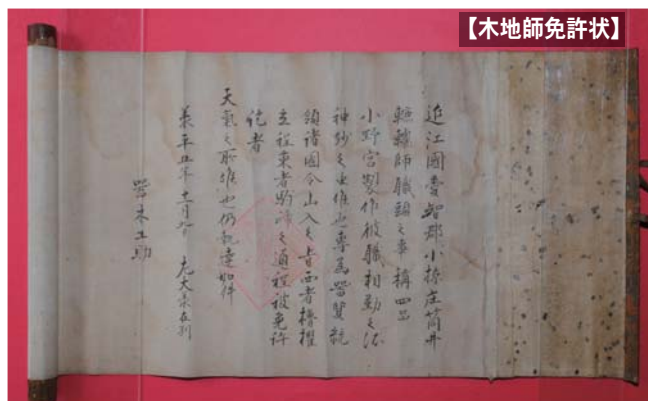
山とともに生きた木地師

今回ご紹介するのは、奥深い山々を生産活動の場としていた木地師にまつわるものです。

木地師は、自然木を加工して生活用具を製作していた職人で、木工道具を使ってトチやケヤキから器や盆などを製作していました。その歴史は古く、一説には今から1100年以上も前といわれています。また「日本全国の山に勝手に入ってもよい」「どの山でも8合目以上の木を自由に伐採してもよい」といった特権を持っていました。

今回は、そうした特権の根拠となる古文書などで、小代区大谷の大石家で大切に保管され、昭和56(1981)年3月に旧美方町指定文化財に指定された古文書は「木地師免許状」「増田右衛門文書」「器地職式法之事」の3点をご紹介します。

【木地師免許状】



伝承によると、平

安時代の初期、文徳天皇の第一皇子である惟喬親王は、皇位継承の争いを避けて近江国小椋谷(現在の滋賀県東近江市)に入山。そこで

手引きのろくろを使った木工技術を地元民に伝授したとい

われ、これが木地師の起源とされています。人里離れた深山に分け入って木工製品を製作する木地師は、良材がなくなる

と新しい土地に移住を繰り返していました。田畑を耕して定住することがない木地師のために、「木地師のふるさと」である小椋谷の神社や寺院が「筒井公文所」や「高松御所」といわれる組織を設立。全国の木地師を自らの「氏子」と称して、その身分の保証と繁栄に努めました。

前述の古文書3点には「筒井」と記載があることから、木地師保護のために筒井公文所が与えたもの

であることが分かります。また、木地師免許状は「朱雀天皇の綸旨」、増田右衛門文書は「豊臣秀吉の免許状」でその家臣が与えたものといわれていて、文書を発した筒井公文所の権威を高めるとともに、木地師にお墨付きを与え、通行の自由や諸役免除の特権を認めています。

こうした特権を得て、全国各地に木工技術を伝播していった木地師。しかし、明治時代初期の山林所有権の確定によって自由に活動することができなくなり、次第に山から山へと渡り歩くことは少なくなりました。

ご紹介した古文書のほかに、のみ、かな、ろくろなどの木工道具も町指定文化財に指定されています。中には、鍛冶に使う「ふいご」(炉の温度を上げるために風を送るもの)も含まれていることから、自らの木工道具を整えるために、木地師が鍛冶を行っていたことも分かります。

山とともに生きた木地師、その生活はどのようなものだったのでしょうか。



【ろくろ】